

産学官民の連携で創るコミュニティ ～現役消防士がつなぐ、まちの未来を創る挑戦～

大阪府守口市 一般社団法人予防団
共同代表理事 宮谷 英穂



一般社団法人予防団は、現役の消防職員と消防設備士を中心に立ち上げた団体です。地域防災力の向上、消防・行政職員のパラレルキャリアの促進、防災人材の育成を柱に、自治会、学校、企業、行政、医療機関などと連携し、防災イベントや講演、体験型の防災教室を行っています。

活動を続ける中で、私たちは一つの課題に何度も向き合ってきました。それは、「防災イベントを企画しても、人が集まりにくい」という現実です。

防災が大切であることは、多くの人が理解しています。しかし、いざ防災訓練や防災講演会となると、参加する人はもともと関心のある方に偏りがちです。本当に届けたい人ほど、防災の場には足を運びにくい。この壁をどう越えていくのかが、私たちの活動の出発点でした。

1 防災を主役にしない “ぼうさい”

予防団が大切にしている考え方の一つが、「防災を主役にしない“ぼうさい”」です。防災を非日常の特別な備えとして切り離すのではなく、日常の延長にあるものとして捉え直す。お祭りや地域イベントなど、人が自然に集まる場所に防災をそっと添えることで、遊びに来た人が、気づけば防災に触れている。そんな入口をつくることを大切にしています（写真1、2）。

防災ゲーム「ポーケン」、非常ベルの押しボ



写真1 公園に遊びに来た市民の方が“ぼうさい”に触れる様子



写真2 遊びながら命を守る行動を知る入口づくり

タン体験、心肺蘇生やAED体験に加え、お笑い、謎解き、鬼ごっこ、ダンスなどと掛け合わせた、今までにない防災にも挑戦しています。防災を「教わるもの」から、「体験して気づくもの」へ変えることが、私たちの活動の土台です。

2 楽しい入口が、 地域の意識を変える

防災に遊びや体験を取り入れることは、防災を軽く扱うことではありません。むしろ、命を守る大切な行動を、より多くの人に届けるための工夫です。子どもが楽しそうに体験している姿を見て、保護者が家庭での備えを考える。地域の人同士が会話を交わし、顔見知りになる。イベントをきっかけに、企業や学校、行政、地域団体が新しくつながる。防災の場は、知識を伝えるだけでなく、人と人が出会う場にもなります。

このような小さな出会いの積み重ねが、災害時に声をかけ合える関係の土台になります。地域防災力は、訓練の日だけで高まるものではありません。日常の中で、どれだけ人と人がつながっているか。その関係性こそが、有事の共助につながると考えています（写真2）。

3 まちづくりを合言葉に、 産学官民の連携を広げる

地域防災は、一つの団体だけで進めるには限界があります。自治会や地域団体には顔の見える関係があり、行政には公的な信頼と地域全体を見る視点があります。学校には次世代を育てる場があり、企業には発想力や技術、スピード感があります。それぞれの強みを持ち寄り、つながることで、新しい地域活動の形が生まれます。予防団は、その間に立ち、

企画づくりや運営支援、行政や企業との調整を行いながら、地域に合った防災コミュニティづくりを目指しています。その中で意識しているのが、**防災を主役にしすぎず、「まちづくり」を合言葉にすること**です。教育、福祉、子育て、防犯、医療、地域イベント、企業活動など、防災を主な目的としていない分野の中にも、防災につながる要素はあります。防災は、専門家だけが担うものではありません。日頃の声かけ、子どもや高齢者への見守り、地域に人が集まる場づくりも、見方を変えれば防災につながる行動です。いつもの活動の中にも、**防災の芽があります**。その気づきを伝え、産学官民の連携につなげていくことが、予防団の大切な役割です。

4 消防・行政職員の パラレルキャリアの促進

予防団の特徴の一つに、**消防・行政職員のパラレルキャリアの促進**があります。パラレルキャリアとは、本業とは別にもう一つの活動の場を持ち、そこで得た経験や学びを本業や社会に還元していく生き方です。行政職員が地域に出ることは、単なるボランティアや兼業にとどまりません。行動することで地域の声を直接聞き、現場で出会う人の思いや困りごとに触れることができます。そこには、通常の業務だけでは得られない気づきや学びがあります。消防・行政で培った知識や経験を地域に還元し、地域で得た気づきを再び本業に活かす。その循環が



写真3 まちづくりを合言葉に広がる
産学官民の連携

生まれることで、行政と地域の距離は近づき、より実情に合った防災やまちづくりにつながると思っています。

私たちの活動が、地域活動に興味を持つ方々にとって、「自分にもできるかもしれない」「まずはやってみよう」と思える後押しになれば幸いです。防災の知識や経験を持つ人が、地域の中で一人でも多く伝達者となることを願っています（写真3）。

5 人とのつながりが、 まちを強くする

人とのつながりで強くなるのは、防災だけではなく。防犯も、福祉も、子育ても、教育も、人と人、地域と人がつながることで支え合いの力が生まれます。

私たちが本当に目指しているのは、**誰もが安心して幸せに暮らせる社会**です。その目的に近づくための手段として、防災があり、まちづくりがあり、社会課題の解決があると考えています。

地域イベントで出会った人がさらに関わり合い、そこから新しい共創が生まれる。防災、福祉、教育、子育て、防犯など、さまざまな社会課題が手を取り合いながら、まち全体を少しずつ良くしていく。そんなまちづくりを、私たちは目指しています。

防災を通じて人がつながる。

人がつながることで、まちが強くなる。

そしてその先に、誰もが安心して幸せに暮らせる地域がある。

産学官民の連携で創る防災コミュニティは、災害への備えにとどまらず、**まちの未来を創る挑戦**です（写真4）。



写真4 人とのつながりが地域を強くする